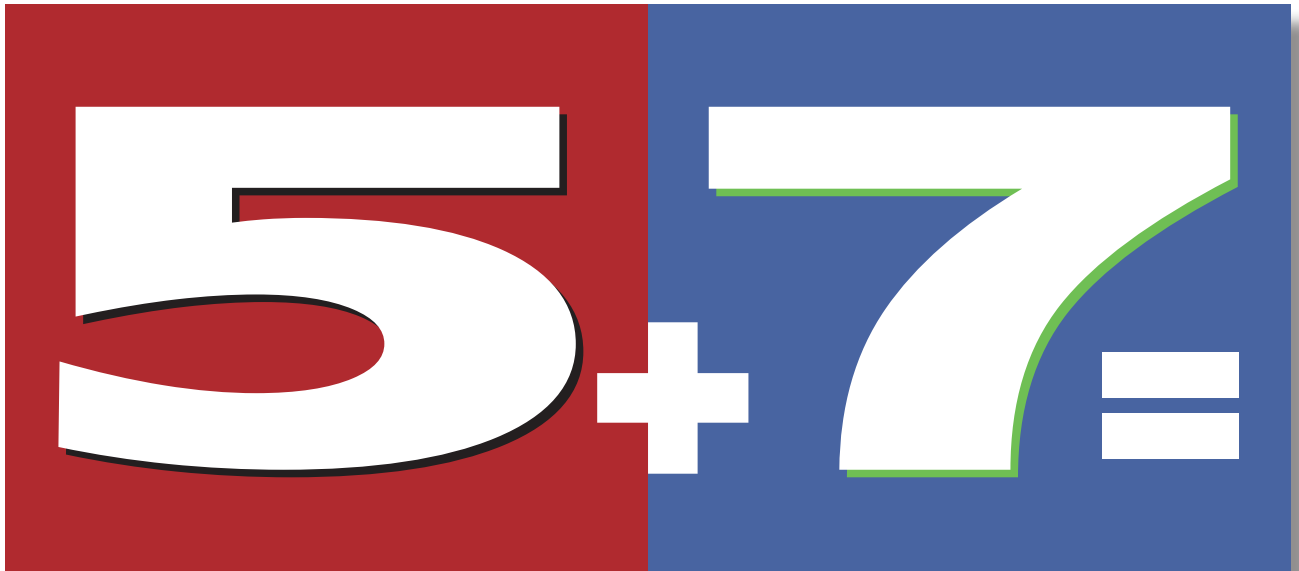




団 だより

カラーWEB版は、ホームページ <http://kama5.sakura.ne.jp/> に公開しています。



新しい一歩に向けて

「現状維持は一步の後退と同じ!」私がまだボーイ隊のスカウトだった頃、ご指導戴いた当時の隊長がキャンプの朝礼で仰られたひと言です。多感な少年時代に投げかけられた言葉の印象は鮮烈で、あれから30年経つ今でも私の心に深く刻まれています。

今、子どもたちを取り巻く環境は、時々刻々と変化し続けています。「ゆとり教育のゆり戻し」に見られるように、学校教育も常に試行錯誤を繰り返して来ました。そして、その先に待ち構えている実社会の厳しさは、深い霧の中で“すぐ目の前のカベの存在すら見通せない”といった時代です。しかし、人が人として幸せに生きる道は、如何なる環境の下であっても、一人ひとりが“唯一無二”である自らの価値を、先ず自分自身でしっかりと認識することから始まります。

B-P卿による創始から100年を超えて尚、色あせることのないスカウト教育法の魅力は、子どもたちが、時に楽

しく・時には厳しいプログラムを通して「自らの可能性を自分自身で拓く体験」を積み重ねる中から、「揺らぎない自分自身の価値」を見出せることにあります。スカウティングはすなわち、子どもたちを「幸福な人生」へといざなう道に他なりません。

鎌倉市内のスカウト運動の歴史は長く、半世紀を超えます。この間に市内のスカウト団が市域の各所に分散しながら果たして来た、地域社会における青少年育成活動としての実績は誠に多大なものがあります。しかし、家庭と学校、そして地域社会。子どもたちを育む“場”それぞれのあり方は、本団が発団した30年前と比較しても大きく変わりました。

鎌倉におけるスカウト運動が、周囲から寄せられる期待と信頼に応えて、これから先もしっかりとその使命を果たして行くためには、市内友団が更なる相互の連携を図り、“オトナの面子”や“おじさんのノスタルジー”の世界を

脱して、“今、現在の子どもたち”に対して「楽しく・手ごたえのあるプログラム」を継続的に提供出来る態勢を再構築することが不可欠であると考えます。

そのための第一歩として、本団は、現在の活動地域が本団とほぼ重なっている**鎌倉第7団**をパートナーとして、両団の「各部門の**活動統合**」に踏み出すこととなりました。同じ目的を共有しつつも生い立ちの異なる団同士、運営上に様々な問題が生ずる時があるかも知れませんが、もとより「スカウティングは合作」ですから、知恵と力を持ち寄れば必ず解決出来るはずです。そして、この動きは、スカウト運動の地域社会における存在感を快復させる一つの端緒となることでしょう。

「現状維持」を目標とするのではなく、常に前進し続ける活動体としての「新しい一歩」に向けて、皆様のご理解とお力添えを改めてお願い申し上げます。

団委員長 **當麻洋一**

思い出深い隊キャンプ 隊長 新井克基

今回は久々であり現スカウトは初めての隊キャンプとなった。例年より2泊3日と短く、地元鎌倉よりむし暑い場所ではある「愛川ふれあい村」をきょ点として、今までとはちがった体験をしたことと思う。

野外すい事では、チームワークがポイントとなる「つな引き式火おこし」から始め、一番に火がおきた2組、続いて1組、特に参加人数が少ない事もあって着火するかハラハラした3組を側で見ていてみんなの一生けんめいなすがた、真けんな顔が今も思いうかぶ。

ロッジでは、マクラ投げもして反せいたした2だんベットのあ組毎のこしつ。夜間にねぼけて起きてきて「みんながない」とつぶやくスカウト、高取山ハイキングのてんぼう台で食べたカブ弁とからあげの取り合い。初めてのスカウトも多かったスイカ割り、おいしかったかな？スイカ。

岩き副長ほがかつやくしたキャンドルファイアー。スタンツでは大きなはくしゅを受けた1組、みんなも参加させてもり上げた2組、みんなのわらいを

取った3組。各組ともすばらしいスタンツであった。さらに、保ご者の方々のおうえんを受けてそうぜい37名とせい大なキャンドルファイアーとなった。

思い返すとあつという間で名残おしい3日間であったが、キャンプを楽しく

無事すごせたこと、保ご者のみなさま、副長・デンリーダーのみなさま、ご支援んありがとうございました。

これからも、スカウトたちが楽しめる活動にいっそう努力して行きたいと思ひます。



キャンプの思い出

◆日時：2009年8月7日～8月9日
◆場所：神奈川県立愛川ふれあいの村

3日間のカブ隊キャンプ 1組 川村亮太



ぼくは、カブ隊では、最後のキャンプでした。今年はねぶくろではなく、ベツだったので良かったです。キャンプ場は愛川ふれあいの村と言う所で、お風呂や食堂などいろいろなせつびがあってすごすごかだなと思いました。

1日目のさいしょに七宝焼きと言うものをカブトムシ棟で作りました。七宝焼きとは、銅をやすりでこすり、白くにごるようにします。次にその銅のうらに、うらびきと言うえきたいをぬり、表にえのぐですきな絵を書きます。それを約800度で焼いて作ります。ぼくがこれを作るのにとくにたいへんだったのは、絵を書く時でした。ぼくは、テン

トウ虫を書いたので、すごくこまかい作業でした。

次にカレーを作りました。でもふううに作るのとはちがい、自分たちで火をおこしたりしないといけませんでした。でも火をおこすと言っても、ちゃんと火おこし機があったので、かんたんだな、と思っていましたが、いがいとたいへんで、なんどもくりかえして、やっと火がつかしました。そのあとは、学校でも同じように作ったことがあったので、だいじょうぶでした。

2日目の最初は、ハイキングでした。ハイキングはどこに行ったかという、高取山に行きました。

次に川あそびをしました。水でっぼうでたたかったりスイカわりをしたりしました。

3日目は、キャンプ最後の日です。こし短かったけど楽しかったです。



1組

楽しかった最後のカブ隊夏キャンプ 1組 日下和

ぼくは、カブ隊では、最後のキャンプでした。それにぼくは、2日目の8月8日がたん生日でした。うさぎやしかのときのキャンプとはちがいました。前のキャンプなどは、ねぶくろでねたけど、今年は2段ベツでした。

1日目は、ロッジで整理をした後、七宝焼きをしました。七宝焼きは、銅をみがいてうらびきをうらにぬって、表に絵の具で絵を書きました。本当はアザラシにしようと思っていたけど、思ったよりも銅が小さくて、アザラシが書けませんでした。なので、日本一高い山富士山にしました。そうしたら意外とうまくできました。それを800度のね

つで焼きました。夜は、カレーを作りました。ぼくたちボーイスカウトは、火おこしからやりました。初めは、うまくできずなかなか火がでませんでした。そのうちに2組が火がついてあせってしまいましたが、うまくいって火がつかしました。その後は、順調にいてとてもおいしいカレーができました。

2日目は、ハイキングに行きました。しおりにのっていた自分の身長と同じ木を見つけたら、とてもふとかったです。そうしたら隊長が「これならゲームが一番だ」と言っていたので、ぼくは不思議でした。それでちょうじょうでべんとうを食べました。午後は、川遊びをし

ていたら、隊長が「ゲームをするから川からあがってきて」と言って、ぼくはなにかなと思っていたら、組別対抗戦の水でっぼう合戦をしました。2組には勝ったけど、3組には負けました。ぼくは、負けたことよりも、とても楽しくやれたことのほうがとてもよかったです。その後に、スイカわりをやりました。順番をきめるときにみんなが「やまのたん生日だから一番にやって」と言ったので、ぼくが一番であってたけど、うまくできませんでした。2周目は、ぼくがあててスイカがわれました。

最後のキャンプとてもたのしかったです。



夏の隊キャンプに参加して 1組DL 松沼真由子

「スカウト達はキャンプに参加すると成長するよね」という話を毎年、耳にしています。実際に自分の子供が一回りも二回りも成長して帰ってくるのを見てもいました。

今回の愛川の隊キャンプでは1組のDLとしてスカウト達と2泊3日過ごすことになり「成長」を一瞬一瞬、肌で感じる事ができました。自分の持ち物の整理がおぼつかなく、次の活動の準備のたびに「あれ、どこにいれたっけ?」と探していたスカウトも3日目

朝にはリュックにきれいに荷物を積めて忘れ物がないかチェックしていました。初日にぬいだ服をクシャクシャに丸めていたスカウトも仲間のやり方を見てハンガーにかけたり、たたんだりするようになりました。

キャンプの目標「大切な仲間」はスカウト達の心に届いたようでハイクや川遊び、七宝焼き作り、野外炊事の火おこしで協力合っていました。DLの何回もの注意、アドバイスよりも仲間の一言に即反応し行動に移っていました。炊

事の火が熱かったり、ハイクの高山は気が悪かったりしたことも、仲間が励ましあって楽しみに変えていました。

スカウト達の元気に圧倒されて過ごした3日間でした。スカウトにもリーダーにも大きなケガや病気がなく過ごせたことが良かったです。私自身は体力的にバテ気味でしたが、「デンリーがない。デンリー?」と呼ばれ探され、背中を押されながら高取山を登ったことが一番の思い出です。スカウト達、どうもありがとう!!

キャンプの思い出 2組 平野義典



8月7日金曜日から8月9日日曜日まで、愛川ふれあいの村のりんどろ2という所でとまりました。

愛川ふれあいの村について、初めてしたのは、七宝やきをしました。まず、丸いどうを、たわしみたいなけずるやつでけずってつるつるにしました。そのあと、うらにうらびきをつけて台にのせておもてにこなを水にひたしたえのぐをつけて、つけたければフリット(ガラスのかげら)をつけます。800度にね

って、ポンドをつけて、キーホルダーにつけてできあがりです。きれいにつけてよかったです。

そのあと、カレーを作りました。一番に火がついてうれしかったです。火は、火おこしセットでやりました。野さいを切って、米をといでつくりました。その時すこしあたまがいたくなってしまいました。できたカレーはおいしかったです。

2日目は、午前中は、ハイキングに行

きました。のぼった山は高取山という705メートルある山にのぼりました。ぼくは、のぼるのがつらかったのあとからついていきました。頂上にてんぼう台があって、上からのながめがよかったです。上で食事をしたけどマナーがわるかったと思います。下山した時に、海生君がまっててくれてうれしかったです。

今回のキャンプが一番たのしかったです。

キャンプの思い出 2組 木村海生

今年のキャンプで一番テーマを守れたのはカレー作りです。

なぜかという、まず火おこしです。ぼくとゆうまがロープを持ち、助っ人のおねえさんとやりました。火は1分から2分ですついでにしまいました。そして、野菜の皮むきをして、野菜を切りました。野菜を切るとき、平野くんがたくさん切ってしまいました。野菜を切っている途中で米も洗いました。米洗いが終わったので、米をたき始めました。そのついでにお茶をわかしました。わかしている途中で火が消えないように、ゆうまと、かおるとゆうごくが火の

たんとうをして、ぼくと平野くんが野菜の担当をしました。ぼくは火のたんとうをしている人たちにこう思いました。なんで火のたんとうをしている人たちは、火がだいじょうぶなのかなと思いました。

野菜洗いを終わらせ、なべにあぶらを入れて、なべをあため、野菜を入れためました。20~30分ぐらいため水をいれ、あくとりをしました。そして、ルーをいれ、ふたをなべにかぶせにこみました。何分かたち、できたと思ってニンジンを見たらかたかったのでもたにこみました。また味見した

らまたかたかったのでもたさらににこみました。そして、もう一度味見したら、やっとなめらかになりました。ごはんもちょうどよくたけて、お茶もできました。紙の皿にごはんを入れ、その次にルーをいれて、完成しました。

カレーのできはすごくよく、おいしかったです。ほかの組のカレーを食べてみましたが、すごく味がちがうのでびっくりしました。なんで味がちがうのかすごく不思議でした。

みんなで作っている途中でいろいろなことを協力できたのでよかったです。



2組



カブ隊キャンプあいかわふれあいの村 2組DL 小瀬村安代

12KCのキャンプを終えて戻ってきた兄のおみやげ話を聞いてあげる暇もなく、大量の洗濯物を終えてカブ隊のキャンプに参加しました。

前日までの天気とは違い猛暑日と思わせる程の暑さの中、現地に着きました。

9月よりデンリーをやらせて頂いて、「子供はほめて育てる」などと全く実行出来ない私にとって、6人の子供達とうまくやっていけるだろうかと不安でいっぱいスタートでした。それから、もう1年、あっという間に締めくくりのキャンプが始まってしまいました。

「キャンプ優秀組」を思い出に取りたいとの思いから「ちょっと頑張ってみようよ!」と声をかけ、それからは「すごいじゃーん!」「できるじゃーん!」の

連発!! カレー作りでは、みんなで協力し、一人ひとりが自分の役割をテキパキこなし、あっという間に火おこしとカレーが出来上がりました。正直、2組ってこんなに出来たっけ? と驚いていました。

気がつけばスカウト達の些細な事でも誉めよう、良い所はないか、と探している自分がいました。2組のスカウト達は、日増しにというか、時間を追うごとに変化が見られ、いつも「後ろでいい」と言っていたのに最後には、りっぱに一番前を歩き、片づけが遅いのには誰よりも早く終わり、下級スカウトを丁寧に指導してあげることができ、仲間を気づかうことができ、仲間と協調出来るようになりました。

「誉めて育てる」とは、こういうこと

なのかと思いました。そして、子育ては子供に育ててもらいたいと思いましたが、自分の子供にも接し方を工夫してみようと深く反省しました。

最終日、見事、優秀組を取ることが出来ました。スカウト達の頑張りの賜もので、とてもうれしく思いました。

たった3日間でしたが、私には少しみんな背が伸びたように感じられました。あと何年かしたら、私より遙かに大きくなってしまふ少年達と一生に一度しかないこの時期を一緒に過ごさせて頂いたことに感謝します。

それから、この一年デンリーとして至らない点が多々あったと思いますが、保護者の皆様、暖かく見守って下さり有難うございました。



3組



3日間のキャンプ 3組 菊地修吾

ぼくは3日間のキャンプで色々なことを学びました。火のつけかたや、方位のことなどを学びました。

1日目には、電車とバスに乗ってキャンプ場についた時は広くてびっくりしました。それから、コテージに入ると、なんかいん気くさいけど二だんベットもついていて前のコテージよりも、とってもかいてきてました。

夜にはカレー作りでとっても苦勞しました。火おこしでは、何十回やってもつかなくて、あきらめかけている時にや

っとついでととてもうれしかったです。

午後には、七宝焼きも作りました。さわってはいけない所をさわってしまったりして怒られたりしたけど、がんばって作ってできました。できた物は、かがやいてきれいででした。夜中は全然ねむれなくて、どうしようと思っていたら、だんだんねむくなってねれました。

2日目にはハイキングに行きました。ハイキングはとってもかこくでした。これまで登ってきた山で一番きつく感じました。その後は川遊びをしました。

川はとっても冷たくてあんまり入りたくないぐらいでした。その後は水でっぽう合戦をしました。3組は強くみんなにおそれられていました。次はスイカわりをしました。2組は一発でわれていいなと思いました。スイカわりは、みんなおいしいところでほうをふるけど、なかなか当たりませんでした。キャンプファイアーでは、みんなをわらわせることができうれしかったです。

3日目はもうキャンプは終わりで、長いようで短いキャンプでした。

カブ隊初のキャンプ 3組 島田大介

ぼくは、2日目から来たんですけど1日目に3組が優秀組を取ったというのでビックリしました。

そして2日目は…なんと午前中からハイキング。でも、午後に川遊びがあると信じてがんばりました。歩いて歩いて歩きまわりました。そして山頂についた時、展望台にのぼって、おにぎりを

食べたんですけどみんなマナーがわるいとおこられました。

ついに…川遊び。一番楽しかったのは、水でっぽう合戦でした。だって3組優勝したからです。ずのうてき勝利です。

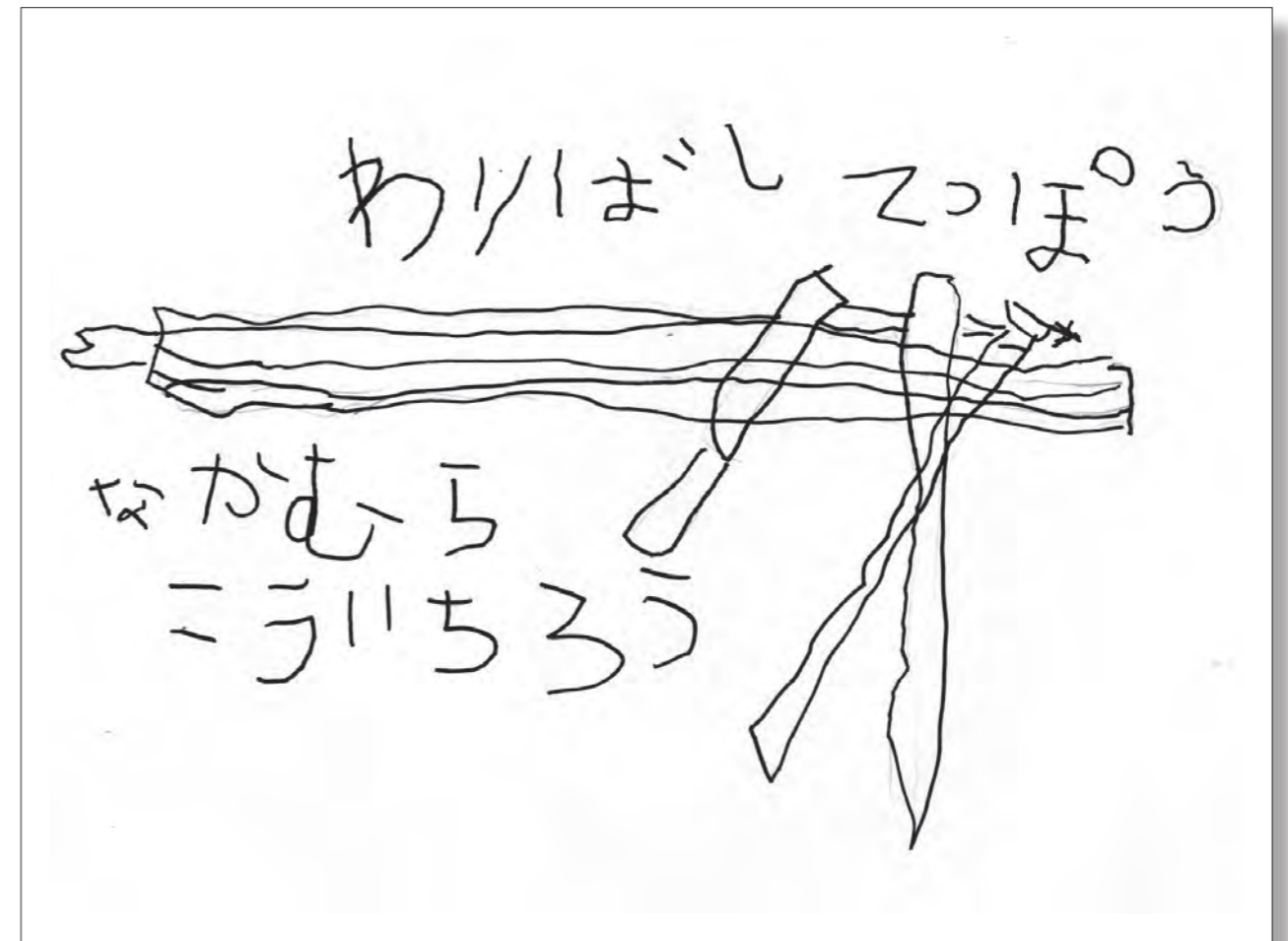
そして夜は、スタンツうまくできたのでうれしかったです。これで終わります。



IBWS

ビーバースカウト隊

ボクが、
**“いちばん
 たのしかった”**
 かつどう



韓国派遣

ボーイ隊 上野詩歩

今年1月に湘南、南央地区合同で、韓国仁川連盟のキャンボリーに参加した。

それにあたって4度ほど訓練会というものがあつたのだが、これが今回の派遣の中で一番面倒なものであつた。訓練会の内容は自己紹介からはじまり、韓国に行った時の説明などだつた。この説明会が楽しくなかつた理由としてはおそらく班員のテンションが異常に低かつたからであろう。なぜかみんな説明会の時はずっとテンションがひくかつたのである。

そんな中ついにやってきた1月3日の集合のとき、「いつも通りのテンションだろうなあ」とおもいつつちょっと暗めで集合場所に行くと、なぜかみんなど

っからわいてきたのか解らないぐらいのハイテンション！後にみんなに聞いてみたところ、少々緊張していたとのことだつた。ま、このみんなのテンションのおかげで韓国派遣を楽しく過ごすことができた。テンションって大事だなあとつくづく思った。

今回、派遣の中で感じたのは「面倒だと思うことでも進んで挑戦していこう」ということだ。実際自分自身、はじめは乗り気ではなかつたが、今となっては行ってよかつたと心からおもっている。

この経験を多くの人にしてもらいたいと僕は思っている。

ぜひ、ぜひ次の機会には多くの人にってもらいたいと思う。

活動の様子はホームページで

昨年度より生まれ変わった鎌倉第5団のホームページ。団の行事予定から各隊の活動計画、写真で見ると直近の活動のレポート、これまでの活動の様子をまとめたアーカイブ、ボーイスカウトのこと、鎌倉第5団のことがよくわかる読み物、さらには団や隊からのお知らせなど、必見の情報が満載です。

新年度の始まりに合わせ、リニューアルも完了。いっそう見やすく、欲しい情報により素早くアクセスできるようになりました。2週間に1度はホームページにアクセス!! 習慣にしてください。



<http://kama5.sakura.ne.jp/>